



山本敬介議員

駅の車イス利用と トイレ状況は

1 災害時の情報伝達

問 9月11日には北海道初の大雨特別警報が発令され、札幌市などで90万人に避難勧告が出されました。近年では災害情報伝達の難しさが焦点化されています。9月20日の防災訓練で、どのような情報伝達を試されるのか伺います。

中村村長 住民懇談会でも、広報車は聞き取れないという苦情があり、なかなかいい方法がない現状です。とりあえず現段階では電話や巡回で周知する方法を考えています。

また、自主防災組織を行政区か班単位で進めていかなければならないと思っています。

問 先日の大雨で村民は不安になっています。抜本的な対策にお金や時間がかかるのなら、それを補完するような仕組みを行政で音頭をとって早急に作るべきです。再度伺います。

中村村長 近年の局地的な大雨に対処するため、伝達方法や住民組織、連絡網、要支援者に対する避難も含め、より細かなものを作りあげていきたいと考えています。

2 ニニウ地域の将来像は

問 ニニウ地区で新しい観光型農業に挑戦される方に対して、村有地の賃貸が決まりました。経緯を伺います。

中村村長 昨年度解体したサイクリングターミナル等の跡地約1.6haの活用を検討していたところ、5月に村民から綿羊飼育候補地を探しているという相談がありました。計画のヒアリングで、ご本人の決意を伺い、計画が本村の産業振興及び観光振興に寄与するものであると判断しました。ニニウキャンプ場と連携した体験型観光の創出も期待されています。

問 この事業受入れには、ニニウ自然の国構想を庁内で見直したと説明がありました。ニニウ地区は、キャンプ場の再開、三角不動産との和解、ターミナル等の解体、新規事業の受入れなど新しい時代を迎えた感があります。元住民、新規事業者の方も交えて、新たなニニウの将来像の夢を描くような時期を迎えていると思います。村長のニニウ将来構想の考えを伺います。

中村村長 ニニウ地区に赤岩

青巖峡も含めたエリアを、占冠村のキャッチフレーズ「自然体感しむかつぶ」を象徴するエリアとして、自然体験の場というコンセプトにより新たな計画づくりに着手したいと考えています。計画策定には様々な方々のご意見を聞きながら、ニニウ地区の活性化にむけた計画づくりを検討していく考えです。

3 村内駅の車イス利用

問 今年の春から養護学校に通われている方で、車椅子で占冠駅を使いたいと、JRに問い合わせたそうです。しかし、占冠駅は無人駅で行政も対応できないことから、車椅子の利用は難しいと断られたそうです。

調べたところ同じ構造の土別駅では、行政（土別市）で窓口を作り、社会福祉協議会と協力して1日4本程度の列車で介助を行っています。利用者が少ないとはいえ、公共の駅を車椅子の方が利用できないというのは問題です。村長の考えを伺います。

中村村長 車椅子利用者の対応については村とJR、それから福祉協議会、関係機関と協議してなるべくスムーズに乗降で

きる体制をとれないか、早い段階で検討したいと思っています。

4 村内駅のトイレの状況

問 駅のトイレは整備が遅れています。占冠駅も洋式化されておらず、トمام駅はトイレレットペーパーさえない状態です。今後、JRへの改善要望や、駅の近くに公共のトイレを設置するなどできませんか。伺います。

中村村長 リゾート利用者がトمام駅のトイレを見ると失望するのではないかと思います。地域住民、リゾートも巻き込んでJRに要望していきます。村独自のトイレは現在のところ難しいと思っています。



紙の設置がないトمام駅のトイレ